

第 23 回 放送番組審議会議事録

2018 年 10 月 26 日

株式会社シーエス・ワンテン

株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日 2018 年 9 月 18 日 火曜日 午前 10 時 30 分～12 時 00 分

2. 開催場所 株式会社テレビ朝日本社 8 階特別会議室

3. 委員の出席

委員総数 8 名

出席委員数 8 名

出席委員の氏名

委員長	池井 優	(慶応義塾大学名誉教授)
委員	石田 則明	(無線システム研究所代表)
委員	黒鉄 ヒロシ	(漫画家)
委員	高木 美也子	(東京通信大学人間福祉学部教授)
委員	戸張 捷	(株式会社ランダムアソシエイツ代表取締役)
委員	丹羽 美之	(東京大学大学院准教授)
委員	藤田 興彦	(児童育成協会理事長)
委員	元村 直樹	(国立映画アーカイブ客員研究員)

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長

福田 泉

業務推進本部長

渡辺 慎一

株式会社テレビ朝日

総合編成局編成戦略部 部長

清水 克也

総合編成局編成戦略部 統括担当部長

吉川 大祐

スポーツ局スポーツセンターGP

中口 裕丈

総合編成局編成戦略部

宇喜多 宏美

総合編成局 CS 事業部 部長

前田 寿之

総合編成局 CS 事業部 CS 編成担当部長

谷 俊之

総合編成局 CS 事業部

小菅 聡之

4. 議 題

「テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ」、
「テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ」の番組について

◆テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ

『乃木坂 46 佐藤楓の世界バドミントンが 46 倍楽しくなる TV』番組審議◆

＜番組内容＞

今年 5 月末にタイ・バンコクで開催された「バドミントン国別対抗戦 2018＝トマス杯（男子）／ユーバー杯（女子）」は、日本女子が地元タイを破り、37 年ぶりの優勝を飾り「世界一」に輝き、男子も準優勝。男女シングルス・ダブルスともに世界ランキングトップ 10 に入るランカーが何人も揃う状況で、7 月 30 日開幕の「世界バドミントン」にも「メダルラッシュ」の期待がかかりました（結果は金 2、銀 2、銅 2 の大躍進）。

その「世界バドミントン」直前のタイミングに、乃木坂 46・佐藤楓と向井葉月の 2 人が、「オグシオペア」で 2008 年北京五輪 5 位に輝くなど輝かしい実績を持つ潮田玲子をスペシャルコーチとして招き、「アタマとカラダ」をフル回転して「バドミントンの魅力」を体感。乃木坂 46 ファンに…そして、バドミントン知っているけど、詳しくルールがわからない…という視聴者の皆様に伝える狙いを持った番組です。テレ朝チャンネル 2 で放送する「世界バドミントン」中継の盛り上げをテレ朝チャンネル 1 で行うという試みにも挑戦しました。

＜委員意見＞

- バドミントンの知識がなかったが、潮田玲子さんが魅力的で解説や教え方がうまく、また、番組もよくまとめられていた。「世界バドミントン」中継にちなんだ番組だが、番組単体として楽しむことができ、とてもいい内容だった。
- バドミントンには様々なテクニックがあり、競技として凄いスポーツなのだと分かった。高校生の競技人口は、サッカー、バスケットに次いで 3 番目で、注目されているスポーツであるということにも驚いた。
- アイドル番組をずっとやってきたアドバンテージと、メジャーではなくても様々なスポーツの中継をやっているという、テレ朝チャンネルの得意技を上手く使ったよい番組であった。
- 乃木坂 46 の二人は、最初は頼りなさもあったが、バドミントン経験者の佐藤楓さんと未経験者の向井葉月さんのコンビが実践編で生きていたと思う。両者がいることによって、バドミントンの難しさがとてもよく分かった。
- ライトな視聴者向けに作られたということだが、競技人口が多いということは、コアな視聴者も潜在的に多くいると思うので、そういった層にも訴えかける作りにするとより良かった。
- 試合を見ることだけを楽しむのか、自分もやってみたいと思わせることも含めて楽しませようとしているのか、そのあたりを整理していただくともっとよい。
- 乃木坂 46 の二人の質問に、「どのようにペアを決めるのか」「賞金はいくらであるか」「海外遠征から帰国直後の取材の際、スッピンだったそうだが」などがあり、潮田玲子さんの回答が良かった。
- あるスポーツが人気スポーツになるのは 3 つの要素が必要で、「強い」「スター選手がいる」「メディアの後押し」である。テレビ朝日の今後のバックアップに期待したい。

<番組内容>

平昌五輪で66年ぶりとなる2大会連続金メダルを獲得した羽生結弦選手の凱旋報告イベントとして大盛況のうちに幕を閉じたアイスショー「Continues ～with Wings～」。

今回のフィギペディアは、その「Continues ～with Wings～」の公演の模様に加え、公演に向けた打ち合わせやリハーサルの様子など、普段は見られない羽生選手の顔、アイスショーの舞台裏を交えたファン待望の大特集でお送りしました。

4月にアイスショー最終日を生中継、5月に全3日間の様子を3夜にわたって放送、そして6月のフィギペディアで舞台裏を放送した一連の「Continues ～with Wings～」展開は大きな注目を集めました。

※ 「Continues ～with Wings～ 羽生結弦凱旋、そして感謝の公演」

タイトルは自身が悩みぬいて命名。羽生選手がフィギュアスケート人生で影響を受けたスケーターたちに自ら出演をオファー。「継承」をテーマに、応援してくれたファンに感謝を伝えるイベントとして開催されました。

<委員意見>

- 映像や構成が素晴らしく、羽生選手初プロデュースということでフィギュアファンには申し分のない3時間の番組であるが、ファンではない人にはやや長いのではないかと感じた。
- なぜこの企画をしたのか、どのようにメンバーが選ばれたのか、そしてショーを実現するための苦労や折衝の大変さなどをドキュメンタリーとしてやれば、フィギュアファンではない人にも興味深いものになったのではないと思う。
- 羽生選手の人物像が出ており、非常に興味深く見た。羽生選手のスケート技術の素晴らしさは知られているが、優しさ、思いやりのある人柄がみえてきて、仲間に慕われていることが分かり、多くのファンがいることも理解できた。
- ファンの人達がどういうものを望んでいるかを考えた丁寧な作りで好感が持てた。ファンの前だからこそ見せる表情や言葉遣いがあり、大規模なイベントであるが閉じた空間でもあり、そういう意味ではコアなファン向けのCS番組として、よくできていたと思う。
- イベント自体をテレビ朝日と一緒に企画し、運営したことが面白い。単発の番組というよりは、全てを含めた一体のものだと感じた。こういったものは、今後のモデルになるのではないと思う。
- ずっとフィギュアを取り上げてきたテレ朝チャンネルの得意技で、下地があったからこそ、フィギュアの特性をうまく活かした番組ができたのだと思う。
- フィギュアには、スポーツの側面、演出の側面、ショーという側面があるのだと、改めて認識した。羽生選手は演出の才能もあり、違う一面を見ることができて面白かった。
- ショーのプロデュースの意図がよく伝わってきたが、振り付け、音楽、照明、リンクコンディショニングなど、舞台裏についても情報を流してくれるととても楽しめた。羽生選手の人柄が伝わってきて、オリンピックの3連覇への期待も高まり、とてもよい番組であった。



5. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた 2018 年 9 月 18 日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。

6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2018 年 11 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載ともに、放送番組としても公表する予定です。

7. その他の参考事項

次回の放送番組審議会は 2018 年 3 月に開催予定。

以上